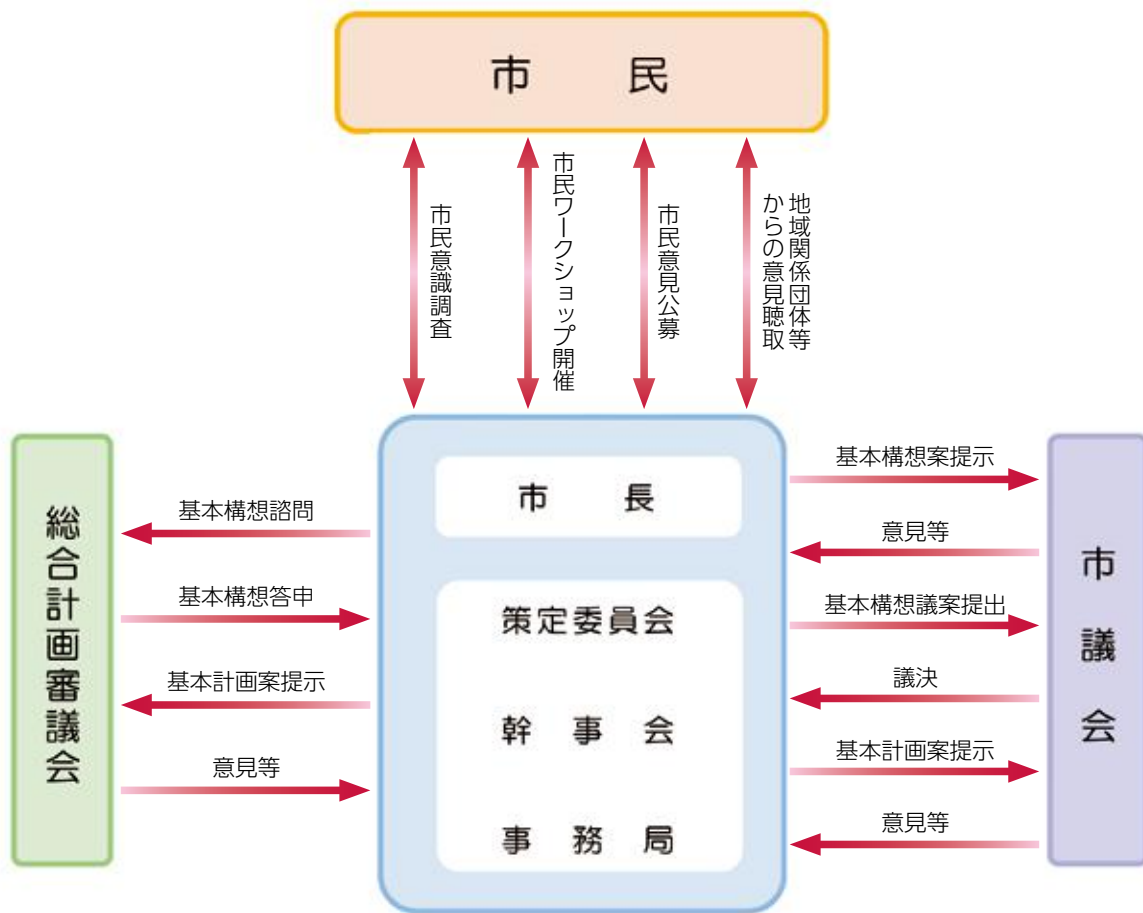


附属資料

1 第5次呉市長期総合計画策定体制



2 呉市総合計画審議会

(1) 条例・規則

○ 附属機関の設置に関する条例

昭和28年5月28日 条例第29号

第1条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定に基づき、市長の附属機関を別表のように設置する。

第2条 附属機関の組織その他については、規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

別表（第1条関係）

名 称	担任する事務
呉市総合計画審議会	呉市長期総合計画の策定に関する審議を行う

○ 附属機関の設置に関する条例施行規則

昭和 28 年 6 月 9 日規則第 40 号

(目的)

第 1 条 この規則は、附属機関の設置に関する条例（昭和 28 年呉市条例第 29 号）第 2 条の規定に基づき、附属機関の組織その他について必要な事項を定めることを目的とする。

(組織)

第 2 条 附属機関は、委員をもつて組織する。

2 委員数は、別表のとおりとする。

(会長及び副会長)

第 3 条 附属機関に会長及び副会長を置き、委員の互選によつて定める。

2 会長は、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理する。

(委員)

第 4 条 委員は、市の職員、学識経験のある者及び関係官公庁等の代表者等の中から市長が命じ又は委嘱する。

(任期)

第 5 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、後任者が就任するまで在任するものとする。

2 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第 6 条 附属機関の会議は、必要に応じて会長が招集する。

2 附属機関は、委員の 2 分の 1 以上でかつ市の職員、学識経験のある者及び関係官公庁等の代表者等の中から選任せられた委員がそれぞれ 1 人以上出席しなければ会議を開くことはできない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

(運営に関する細目)

第 7 条 この規則で定めるもののほか、附属機関の運営に関する細目については、附属機関が定める。

附 則

この規則は、昭和 28 年 5 月 28 日から適用する。

付 則（平成 21 年 7 月 6 日規則第 36 号）

この規則は、公布の日から施行する。

付 則（平成 22 年 7 月 23 日規則第 32 号）

この規則は、公布の日から施行する。

付 則（平成 27 年 6 月 1 日規則第 38 号）

この規則は、公布の日から施行する。

付 則（令和 2 年 5 月 1 日規則第 32 号）

この規則は、公布の日から施行する。

別表（第 2 条関係）

附属機関の名称	委員数			
	市の職員	学識経験ある者	関係官公庁の代表者等	計
呉市総合計画審議会	2	25	1	28

(2) 呉市総合計画審議会委員名簿 (50音順, 敬称略)

(令和3年3月1日時点)

委員氏名	団体・機関役職名	役職
赤川 安正	広島大学名誉教授 呉市顧問 (大学・研究所誘致)	会長
伊藤 美智代	ひまわり 21 代表	
岩崎 誠	中国新聞社 呉支社長	
岩原 昇	呉市議会 副議長	
笛吹 理絵	広島大学大学院 人間社会科学研究科 助教	
梅木 敏明	一般社団法人広島県観光連盟 専務理事	
小倉 亜紗美	呉工業高等専門学校 講師	
折橋 洋介	広島大学大学院 人間社会科学研究科 教授	
海堀 正博	広島大学防災・減災研究センター センター長	
亀山 博司	呉広域商工会 会長	
神田 佑亮	呉工業高等専門学校 環境都市工学科 教授	
來山 哲	広島県 地域政策局 総括官 (地域振興)	
郡山 龍	呉市顧問 (ICT 推進)	
小谷 眞喜子	呉市教育委員会 委員	
小林 通匡	呉商工会議所 副会頭 広島県中小企業家同友会呉支部 副支部長	
小松 良三	呉市 副市長	
下野 隆司	NPO 法人 SYL 理事長	
高田 敏昌	連合広島呉地域協議会 議長	
武田 守弘	広島文化学園大学 スポーツ健康福祉学科 教授	
田中 貴宏	広島大学大学院 先進理工系科学研究科 教授	
西川 奈央子	ドライフラワー専門店 botanico 代表	
信友 直子	ドキュメンタリー監督	
濱里 要	呉市 副市長	
松本 美幸	松本美幸税理士事務所 代表	
向井 淳滋	呉信用金庫 理事長	副会長
森本 茂樹	呉市議会 議長	
山内 京子	広島文化学園大学 看護学部長	
渡辺 晴子	広島国際大学 健康科学部医療福祉学科 准教授	

以下, 前委員

上村 臣男 呉市議会 副議長 (就任期間: 令和2年5月11日~6月22日)

(3) 諮問・答申

○ 諮問

<p>呉市総合計画審議会 会長 赤川 安正 様</p>	<p>呉企企第54号 令和2年7月14日</p>
<p>呉市長 新原 芳明</p>	
<p>第5次呉市長期総合計画基本構想について (諮問)</p>	
<p>「第5次呉市長期総合計画基本構想」について、貴審議会の意見を求めます。</p>	

○ 答申

<p>呉市長 新原 芳明 様</p>	<p>令和2年9月28日</p>
<p>呉市総合計画審議会 会長 赤川 安正</p>	
<p>第5次呉市長期総合計画基本構想について (答申)</p>	
<p>令和2年7月14日付呉企企第54号をもって呉市総合計画審議会（以下「審議会」という。）へ諮問がありました第5次呉市長期総合計画基本構想について、別添のとおり答申します。</p> <p>これからの呉市は、人口減少、少子高齢化が進行する中、情報通信を始めとする様々な技術の急速な進歩や自然災害の脅威への対応とともに、新型コロナウイルス感染症を克服し「新たな日常」を構築することが求められています。</p> <p>さらに、日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止発表に伴い、今後、地域の雇用や関連企業の経営等への極めて大きな影響が見込まれています。</p> <p>このような状況の中で、若者や高齢者、女性、障害者、外国人など、すべての人々が、住みたい、住み続けたい、行ってみたいと思う、人を惹きつける魅力的なまちを目指して、呉市の将来都市像を『誰もが住み続けたい、行ってみたい、人を惹きつけるまち「くれ」～イキイキと働き、豊かに安心して暮らし、ワクワク生きる～』と決めました。</p> <p>この将来都市像の実現に向けて、海軍の発展とともに世界最高水準の人や技術が集まった歴史や文化など呉市ならではの特性と最先端のICTを融合させながら、市民や企業等と一体となって取組を進めていくことを要望します。</p>	

(4) 審議経過

回	開催日	審議事項
第1回 *	令和2年 5月	<ul style="list-style-type: none"> ・正副会長の選出 ・第4次呉市長期総合計画後期基本計画の改定（令和2年度版）についての報告 ・呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定（令和2年度版）についての報告 ・呉市民意識調査等の結果についての報告 ・第5次呉市長期総合計画の基本的な考え方について ・呉市を取り巻く環境について ・第4次呉市長期総合計画及び呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の振返りについて
諮問	令和2年 7月 14日	<ul style="list-style-type: none"> ・第5次呉市長期総合計画基本構想について
第2回	令和2年 7月 14日	<ul style="list-style-type: none"> ・呉市長期総合計画（第2編 基本構想まで）たたき台の説明 ・目指すべき姿に関する意見・提案について
第3回	令和2年 9月 9日	<ul style="list-style-type: none"> ・第5次呉市長期総合計画（第2編 基本構想まで）素案について ・政策体系図（イメージ）について
答申	令和2年 9月 28日	<ul style="list-style-type: none"> ・第5次呉市長期総合計画基本構想について
第4回	令和2年 12月 7日	<ul style="list-style-type: none"> ・第5次呉市長期総合計画（第2編 基本構想まで）最終案及びパブリックコメント結果の報告 ・第5次呉市長期総合計画（第3編 前期基本計画）素案について
第5回 *	令和3年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・第5次呉市長期総合計画 第3編 前期基本計画（第3章 国土強^{じん}靱化地域計画を含む）最終案について

*新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、会議形式での開催を取りやめ、書面審議を実施

3 市民ワークショップ

(1) 目的

第5次呉市長期総合計画の策定に当たり，無作為抽出による18～39歳までの市民及び学生が「10年後の呉市のあるべき姿」をテーマに，自由に意見交換し，呉市のまちづくりの課題，まちづくりの方向性などを検討

(2) 参加者

無作為抽出により選出された市民 8名

呉市内の大学・高等専門学校の学生 3名

(3) 会議内容

回	開催日	内容
第1回	令和2年6月 3日	<ul style="list-style-type: none"> ・呉市長期総合計画の概要説明 ・意見交換 「呉市の悪いところ（劣っているところ，問題点など）」 「呉市の良いところ（優れているところ，魅力など）」
第2回	令和2年6月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換 「各政策分野について」
第3回	令和2年7月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換① 「基本構想のたたき台について」 ・意見交換② 「未来の呉市について」

4 意見聴取

○ 地域関係団体等からの意見聴取

(1) 目的

第5次呉市長期総合計画の策定に当たり、地域関係団体等から、第5次呉市長期総合計画（たたき台）のうち「第1編 序論」及び「第2編 基本構想」についての意見を聴取。

(2) 聴取団体

12団体（呉市民生委員児童委員協議会、呉市医師会、呉市歯科医師会、呉市薬剤師会、呉市社会福祉協議会、くれパステル、呉市自治会連合会、呉市女性連合会、呉市消費者協議会、呉市文化団体連合会、呉市体育協会、くれ環境市民の会）

(3) 期間

令和2年7月15日～8月28日

○ 市民意見公募（パブリックコメント）

(1) 目的

第5次呉市長期総合計画の策定に当たり、よりよい計画にするため、第5次呉市長期総合計画（案）のうち「第1編 序論」及び「第2編 基本構想」部分について市民からの意見を募集。

(2) 募集期間

令和2年10月1日～10月30日

(3) 提出方法

郵送、ファクシミリ、電子メール、持参、電子申請

(3) 意見数

4名より30件

5 庁内組織

(1) 呉市総合計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 新たな呉市長期総合計画（以下「総合計画」という。）の基本構想及び基本計画の策定事務の円滑な推進を図るため、呉市総合計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 総合計画（まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条に掲げる市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定を含む）の原案を策定し、市長に提出すること。
- (2) 総合計画の策定に係る調整に関すること。
- (3) その他総合計画の策定に関し必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員長、副委員長及び委員を持って構成し、それぞれ別表第1に掲げる者又は職にある者をもって充てる。

2 委員長は、委員会を総括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(委員会の会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会の会議は、必要に応じて、当該議事に関係のある委員のみを招集して開くことができる。

(幹事会)

第5条 委員会の事務を補佐するため、幹事会を設置する。

2 幹事会は、代表幹事、副代表幹事及び幹事をもって構成し、それぞれ別表第2に掲げる職にある者をもって充てる。

3 代表幹事は、幹事会を総括する。

4 副代表幹事は、代表幹事を補佐し、代表幹事に事故があるときは、その職務を代理する。この場合において、副代表幹事が二人以上あるときは、あらかじめ代表幹事が定めた順序で、その職務を代理する。

5 幹事会の会議は、代表幹事が招集し、その議長となる。

6 幹事会の会議は、必要に応じて、当該議事に関係のある幹事のみを招集して開くことができる。

7 代表幹事は、特に必要があると認めるときは、幹事以外の者を幹事会の会議に出席させ、その説明又は意見を聴くことができる。

(事務局)

第6条 委員会に関する事務を処理するため、事務局を企画部企画課に置く。

2 事務局長は、企画課長をもって充てる。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和元年10月1日から実施する。

附 則

1 この要綱は、令和2年4月1日から実施する。

2 呉市まち・ひと・しごと創生本部設置要綱（平成28年4月1日実施）は、廃止する。

別表第1 (第3条関係)

(令和2年4月1日時点)

区分	職名等
委員長	第1副市長
副委員長	第2副市長
委員	上下水道事業管理者
委員	教育長
委員	消防長
委員	復興総室長(兼)総務部参事(危機管理総合調整)
委員	総務部長
委員	企画部長
委員	財務部長
委員	市民部長
委員	文化スポーツ部長
委員	福祉保健部長
委員	福祉保健部福祉担当部長
委員	福祉保健部子育て担当部長
委員	環境部長
委員	産業部長
委員	産業部農林水産担当部長
委員	都市部長(兼)呉駅周辺事業推進室長
委員	土木部長
委員	会計管理者
委員	教育部長
委員	消防局副局長
委員	経営総務部長

別表第2 (第5条関係)

(令和2年4月1日時点)

区分	所属	職名等
代表幹事	企画部	企画課長
副代表幹事	総務部	行政改革課長
副代表幹事	財務部	財政課長
幹事	復興総室	復興担当課長
幹事	総務部	総務課長
幹事	市民部	地域協働課長
幹事	文化スポーツ部	文化振興課長
幹事	福祉保健部	福祉保健課長
幹事	//	障害福祉課長
幹事	//	子育て支援課長
幹事	環境部	環境政策課長
幹事	産業部	商工振興課長
幹事	//	農林水産課長
幹事	都市部	都市計画課長
幹事	土木部	土木総務課長
幹事	//	土木企画担当課長
幹事	会計課	会計課長
幹事	教育部	教育総務課長
幹事	消防局	消防総務課長
幹事	上下水道局	上下水道総務課長

6 第5次呉市長期総合計画策定の主な経過

開催日	内 容
令和元年8月19日	総務委員会 行政報告 ・第5次呉市長期総合計画の策定について
10月 8日	第1回幹事会
12月	呉市民意識調査 結婚・出産・子育てに関する意識調査 若者（高校生）の定住志向に関するアンケート調査
令和2年2月17日	第2回幹事会
3月 9日	総務委員会 行政報告 ・第4次呉市長期総合計画及び呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の振返りに ついて
5月	第1回総合計画審議会
5月18日	第3回幹事会
6月 3日	第1回市民ワークショップ
6月17日	総務委員会 行政報告 ・第4次呉市長期総合計画後期基本計画の改定（令和2年度版）について（報告） ・呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定（令和2年度版）について（報告） ・呉市民意識調査等の結果について（報告） ・第5次呉市長期総合計画の基本的な考え方について
6月24日	第2回市民ワークショップ
7月	地域関係団体等からの意見聴取
7月 9日	第4回幹事会
7月14日	諮問 第2回総合計画審議会
7月15日	第3回市民ワークショップ
9月 9日	第3回総合計画審議会
9月28日	答申
9月29日	総務委員会 行政報告 ・第5次呉市長期総合計画素案について
10月 1日	市民意見公募
12月 7日	第4回総合計画審議会
12月 9日	総務委員会 付託議案 ・議第128号 呉市長期総合計画基本構想について 総務委員会 行政報告 ・第5次呉市長期総合計画「前期基本計画（素案）」について
12月16日	市議会本会議にて、基本構想（議案）を可決
令和3年1月	第5回総合計画審議会
3月 4日	総務委員会 行政報告 ・第5次呉市長期総合計画「前期基本計画（案）」について

7 市民意識調査等の結果

詳しくは市ホームページに掲載
<https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/7/siminnisikityousa.html>



○ 呉市民意識調査

1 調査の概要

(1) 調査の目的

市民の呉市に対するイメージや生活に関わる様々な分野についての意見・評価などを調査することにより、今後の市政運営の参考とします。

(2) 調査の設計

調査対象 呉市に居住する満20歳以上の男女4,000人（地区ごとに住民基本台帳から無作為抽出）
〔前回調査（平成26年12月実施）と同じ〕

調査方法 郵送配布・郵送回収〔前回調査と同じ〕

調査実施期間 令和元年12月9日～12月27日〔前回調査 平成26年12月8日～12月26日〕

(3) 回収結果

有効回収数 1,577票 男性：655票，女性：904票，無回答：18票（回収率：39.4%）

〔前回調査：2,307票 男性：892票，女性：1,328票，無回答：87票（回収率：57.7%）〕

回答者の年代別内訳（ウェイトバック※後サンプル数：1,575票）

20歳代	90人（5.7%）	30歳代	131人（8.3%）	40歳代	184人（11.7%）	50歳代	195人（12.4%）
60～64歳	132人（8.4%）	65～74歳	396人（25.1%）	75歳以上	408人（25.9%）	無回答	39人（2.5%）

2 調査結果の概況

調査結果の概況は、次のとおりです。

(1) 呉市の住みやすさ

ア 呉市を「住みよい」と感じている人は68.2%で、前回調査（69.5%）より1.3ポイント減少しています。

イ 呉市に「愛着」を感じている人は、79.3%で、前回調査（69.7%）より9.6ポイント増加しています。

ウ 住んでいる地域で人口が減っていると感じている人は67.2%で、前回調査（60.2%）より7.0ポイント増加しています。

エ 人口減少を抑えるために必要な取組では、「生活環境の充実（50.1%）」「結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援（35.4%）」「産業の競争力強化（30.2%）」の順に多くなっています。

また、年齢層別では、子育て世帯の多い20歳代・30歳代では、「結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援」が最も多く、6割（20歳代：60.1%、30歳代：62.4%）を超えています。

(2) 健康づくり

現在、「健康である」と感じている人は71.8%で、前回調査（72.3%）より0.5ポイント減少しています。

定期的な運動を行っている人（週2回以上）は37.3%（前回調査29.8%※前回は週3回以上）となっており、毎年、健康診査を受診している人は、72.7%（前回調査61.7%）で前回調査より11.0ポイント増加しています。

(3) 少子化対策・高齢化対策、教育、市民協働

ア 少子化対策として充実すべき取組では、「雇用・収入の安定（37.7%）」「保育サービス（保育所、一時預かり）（29.0%）」「出産・育児がしやすい職場の環境づくり（28.6%）」の順に多くなっています。

イ 高齢化対策として充実すべき取組では、「生活支援（買い物、食事など）（33.4%）」「高齢者の活躍の場の創出（再就職、ボランティアなど）（33.3%）」「移動支援（生活バスの運行支援など）（27.9%）」の順に多くなっています。

ウ 教育環境の向上に向けて進めていけばよい取組では、「教員の増員（47.6%）」「学校トイレの洋式化（26.7%）」「通学費への助成（25.2%）」の順に多くなっています。

エ 地域活動の維持や地域の課題解決に向けて必要だと思う取組では、「地域活動に参加していない人が参加しやすい環境づくり（56.5%）」「将来の担い手の確保（子どもや学生、外国人など）（30.4%）」「活動内容の情報発信（29.1%）」の順に多くなっています。

※ ウェイトバック：回収されたデータと母集団調査対象の構成比をほぼ同じにするため、母集団を抽出した際の構成比によるサンプル補正集計を行うこと

(4) 安全・安心

- ア 台風や大雨のとき、避難情報を確認するようにしている人は87.5%で、避難情報の確認方法は、「テレビ(70.8%)」「携帯アプリ・メール等(61.0%)」「防災行政無線(32.9%)」の順に多くなっています。
- イ 平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興が進んでいると思う人は63.9%、進んでいないと思う人は25.2%となっており、進んでいないと思う分野は「道路・河川・農地等の復旧(69.9%)」「砂防・治山ダムの整備(44.8%)」「被災者の生活再建(36.1%)」の順に多くなっています。

(5) 観光・交流、農水産業、商工業

- ア 多くの観光客に来ていただくために必要だと思う取組では、「観光地の駐車場やトイレ、案内表示の整備(43.7%)」「観光地への公共交通の充実(36.6%)」「映画・ドラマ等のロケ誘致、映画・アニメを活用した観光客誘致(33.4%)」の順に多くなっています。
- イ 呉市の農水産業を発展させていくために必要な取組では、「農水産業の新規参入者や後継者を育成する(46.4%)」「市民が積極的に地元産を購入する(45.5%)」「有害鳥獣対策を充実する(39.8%)」の順に多くなっています。
- ウ 商工業を発展させていくために必要な取組では、「企業誘致・留置による働く場所の確保(56.6%)」「人材の安定的な確保と人材育成の支援(44.3%)」「起業・創業したい方と、事業を引き継ぎたい方とのマッチング支援(32.8%)」の順に多くなっています。

(6) 高次都市機能

今後、整備していくべき都市機能では、「JR呉線の機能強化(52.0%)」「安全で円滑な幹線道路網の整備(49.2%)」「基幹バス・生活バスなどの充実(46.6%)」の順に多くなっています。

(7) 呉市の政策全般に対する満足度・重要度

市役所が提供している様々なサービスについて、「満足度が高い」との評価を受けたサービスは、「消防・救急(救急・消防活動など)」「広報(市政だより、市ホームページなど)」「健康づくり(ウォーキング大会、健診の受診促進、食育など)」の順となっています。また、「重要度が高い」とされたサービスは、「消防・救急(救急・消防活動など)」「防災、災害対応(浸水対策など)」「ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策」の順になっています。

3 調査結果の主な特徴

調査結果の主な特徴は、次のとおりです。[単位：％] () 内の数値は前回調査の数値 ※は新規調査項目

(1) 呉市の住みやすさについて

ア 呉市を「住みよい」と感じている人 ⇒ 68.2(69.5) 【図1】

・住みよさと感じる要因

- 1位 買い物環境 50.9(51.5)
- 2位 医療環境 42.6(40.9)
- 3位 自然環境※ 38.0(-)

イ 呉市を「住みにくい」と感じている人 ⇒ 24.5(22.6)

・住みにくさと感じる要因

- 1位 買い物環境 63.3(49.9)
- 2位 通勤, 通学 38.8(37.3)
- 3位 医療環境 31.5(29.6)

ウ 呉市に愛着を感じている人 ⇒ 79.3(69.7)

・40歳代では85.2となり、前回調査(62.1)より23.1ポイント増加しています。

エ 住んでいる地域で人口が減っていると感じている人 ⇒ 67.2(60.2)

オ 地域の人口の変化を不安に感じている人 ⇒ 46.2(41.0)

・不安に感じる理由

- 1位 近隣の商店等が閉店し不便になる※ 56.7(-)
- 2位 にぎわいがなくなる 51.7(54.0)
- 3位 公共交通機関が維持できなくなり不便になる※ 45.7(-)

カ 人口減少を抑えるために必要な取組 【図2】

- 1位 生活環境の充実 50.1(51.8)
- 2位 結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援 35.4(43.6)
- 3位 産業の競争力強化(企業誘致など) 30.2(59.5)

・「生活環境の充実」は、20歳代で4割、60歳以上では5割を超えており、年齢が上がるほど多くなっています。また、「結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援」は、子育て世代の多い20歳代・30歳代で6割を超えています。

キ 今住んでいる地域へ住み続けたい人 ⇒ 64.0(63.5) 【図3】

・「移りたい(11.8)」は、前回調査(15.9)より4.1ポイント減少しています。

・「移りたい」は、20歳代で22.9となり前回調査(31.4)より8.5ポイント減少し、40歳代は10.0となり、前回調査(19.7)より9.7ポイント減少しています。

・「移りたい」と回答した人が希望する転居地域は、広島市(30.3)と呉市内の別地区(29.5)、県外(16.4)となっています。

ク 他の地域(市内, 市外)へ移りたいと思う理由※ 【図4】

- 1位 買い物環境 55.2(-)
- 2位 通勤, 通学 34.8(-)
- 3位 医療環境 32.6(-)

図1 呉市の住みやすさ(性別・年齢層別)

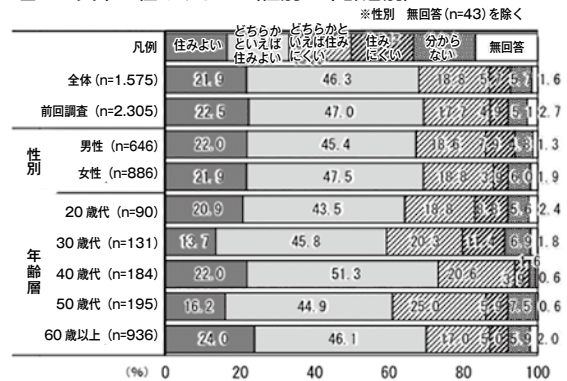


図2 人口減少を抑えるために必要な取組

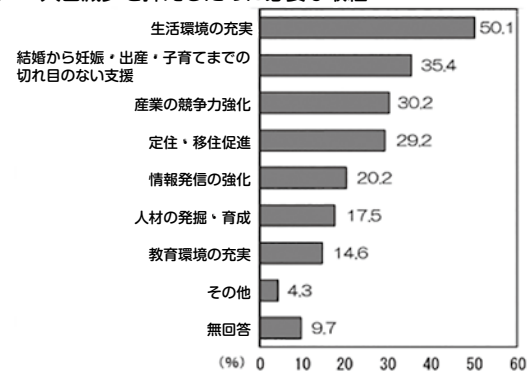


図3 今の居住地への居住意向(性別・年齢層別)

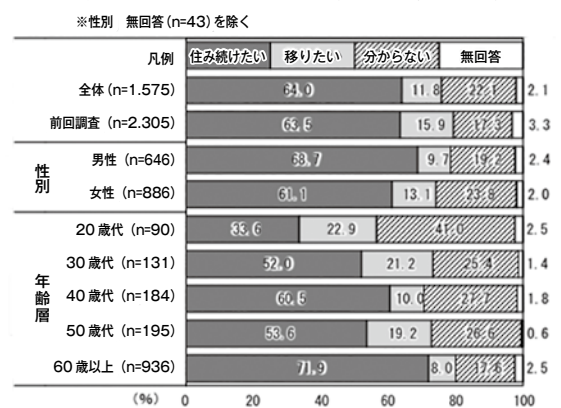
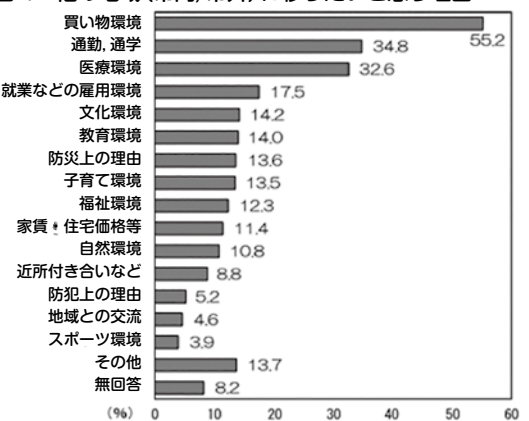


図4 他の地域(市内, 市外)に移りたいと思う理由



(2) 呉市の主要課題に対する意識について

ア 健康づくり

(ア) 現在、「健康である」と感じている人 ⇒ 71.8 (72.3) 【図5】

(イ) 定期的な運動を行っている人 (週2回以上) ⇒ 37.3 (29.8 ※週3回以上)

(ウ) 健康増進の運動のために必要な環境整備

1位 各種運動教室・講座の充実 (まちづくりセンターなど)	33.3 (29.4)
2位 ウォーキング・ランニングコースの整備	32.8 (29.5)
3位 トレーニングルーム・機器の整備	28.0 (22.8)

(エ) 毎年、健康診査を受診している人 ⇒ 72.7 (61.7)

・男性は77.8 (68.2), 女性は69.1 (57.3) と、前回調査より男女ともに増加しています。

イ 少子化対策・高齢化対策

(ア) 少子化対策として充実すべき取組 【図6】

1位 雇用・収入の安定※	37.7 (-)
2位 保育サービス (保育所, 一時預かり)	29.0 (52.7)
3位 出産・育児がしやすい職場の環境づくり※	28.6 (-)

(イ) 高齢化対策として充実すべき取組

1位 生活支援 (買い物, 食事など)	33.4 (37.3)
2位 高齢者の活躍の場の創出 (再就職, ボランティアなど)	33.3 (34.7)
3位 移動支援 (生活バスの運行支援など)	27.9 (23.3)

ウ 人権尊重・男女共同参画

(ア) 差別はなくすべきであると考えている人 ⇒ 83.6 (84.0)

(イ) 男女の地位

	男性優遇	平等	女性優遇
社会全体	62.3 (63.1)	15.0 (14.7)	2.9 (3.1)
子育て※	42.3 (-)	17.3 (-)	17.6 (-)

エ 教育

(ア) 教育環境の向上に向けて進めていけばよい取組 【図7】

1位 教員の増員	47.6 (31.7)
2位 学校トイレの洋式化※	26.7 (-)
3位 通学費への助成	25.2 (18.2)

(イ) 子どもたちの豊かな心の育成のために必要な取組 ※今回から複数回答

1位 子どもが『本物体験』できる機会を増やすこと	51.1 (16.1)
2位 地域のよさを学ぶことができる機会を増やすこと	48.7 (25.8)
3位 年齢が違う子ども同士が交流する機会を増やすこと	44.8 (14.2)

オ 市民協働

(ア) お住まいの地域で地域活動に参加している人 ⇒ 37.7 (38.6)

(イ) 参加している地域活動

1位 自治会	65.1 (67.3)
2位 祭り, 運動会などの世話	23.4 (25.8)
3位 ボランティア活動	20.9 (18.3)

(ウ) 地域活動に参加しやすくなると思うこと

1位 世話役の持ち回りなどの負担を減らす	43.4 (35.5)
2位 活動内容や連絡先などをPRする	31.3 (28.9)
3位 活動団体からの声かけを行う	26.9 (27.5)

(エ) 地域活動の維持や地域の課題解決に向けて必要だと思う取組※ 【図8】

1位 地域活動に参加していない人が参加しやすい環境づくり	56.5 (-)
2位 将来の担い手の確保 (子どもや学生, 外国人など)	30.4 (-)
3位 活動内容の情報発信	29.1 (-)

図5 健康状態の認識 (性別・年齢層別)

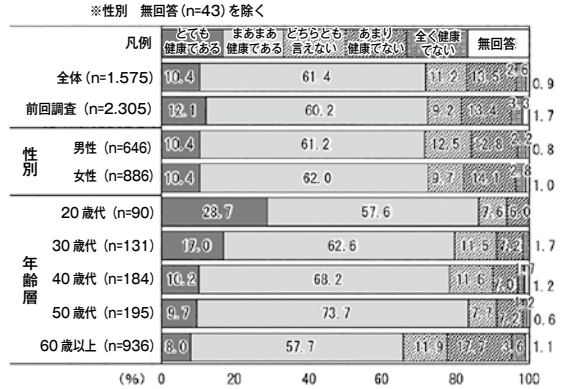


図6 少子化対策として充実すべき取組

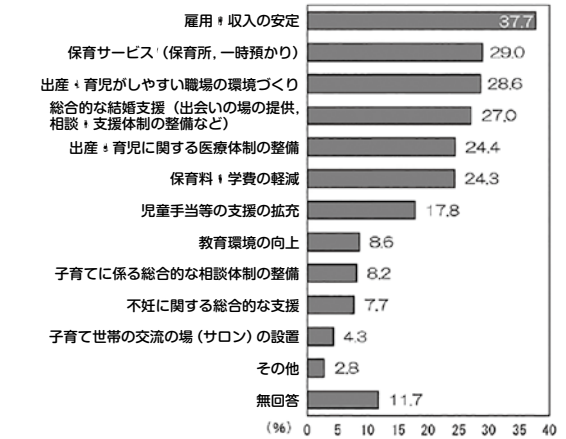


図7 教育環境の向上に向けて進めていけばよい取組

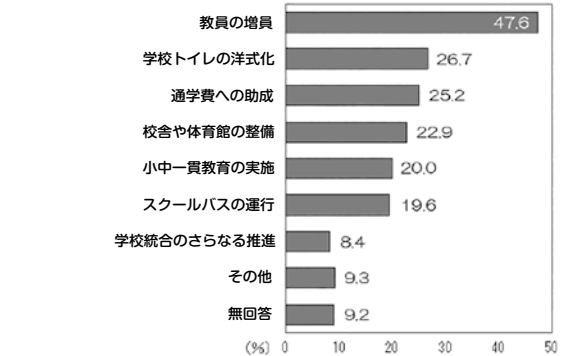
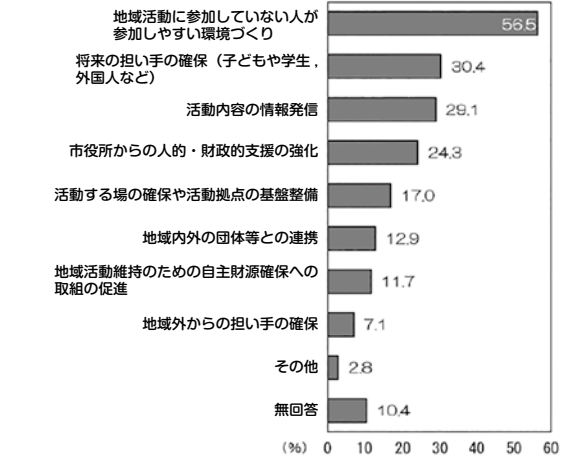


図8 地域活動の維持や地域の課題解決に向けて必要だと思う取組



カ 安全・安心

(7) 市役所からの発信情報の確認手段※ 【図9】

- 1位 市政だより 87.0 (-)
- 2位 テレビ 20.0 (-)
- 3位 防災行政無線 19.9 (-)

(イ) 台風や大雨のとき、避難情報を確認するようにしている人※ ⇒ 87.5 (-)

- ・避難情報の確認方法※
- 1位 テレビ 70.8 (-)
- 2位 携帯アプリ・メール等 61.0 (-)
- 3位 防災行政無線 32.9 (-)

(ウ) 自宅から避難所までの避難経路を確認している人※ ⇒ 87.4 (-)

・20歳代で「確認していない」が30.2となっています。

(エ) 住んでいる地域での災害に対する不安【不安】 【不安はない】

- 地震 ⇒ 79.5 (73.7) 10.6 (16.1)
 - 山崩れ、崖崩れ ⇒ 60.5 (51.3) 30.6 (37.4)
 - 建物火災 ⇒ 59.4 (56.5) 26.9 (29.9)
 - 河川の氾らん、低地部の浸水 ⇒ 51.8 (40.7) 36.8 (45.0)
- ・「不安」は前回調査より、地震が5.8ポイント、山崩れ、崖崩れが9.2ポイント、河川の氾らん、低地部の浸水が11.1ポイント増加している。

(オ) 平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興が
 進んでいると思う人※ ⇒ 63.9 (-)
 進んでいないと思う人※ ⇒ 25.2 (-)

(カ) 復旧・復興が「あまり進んでいない」「進んでいない」と思う分野※

- 1位 道路・河川・農地等の復旧 69.9 (-) 【図10】
- 2位 砂防・治山ダムの整備 44.8 (-)
- 3位 被災者の生活再建 36.1 (-)

図9 市役所からの発信情報の確認手段

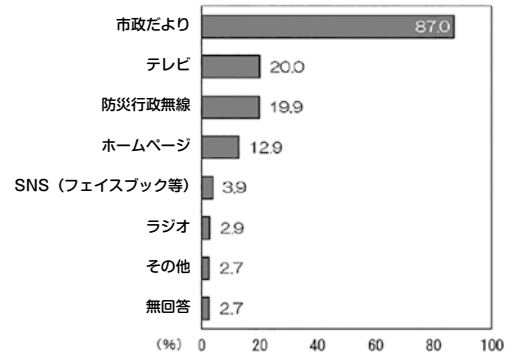
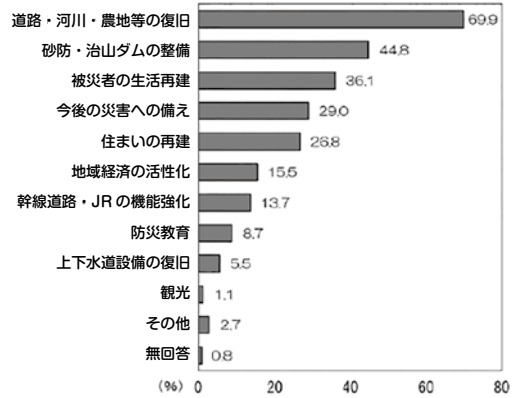


図10 復旧・復興が「あまり進んでいない」「進んでいない」と思う分野



キ 観光・交流

多くの観光客に来ていただくために必要だと思う取組※ 【図11】

- 1位 観光地の駐車場やトイレ、案内表示の整備 43.7 (-)
- 2位 観光地への公共交通の充実 36.6 (-)
- 3位 映画・ドラマ等のロケ誘致、
 映画・アニメを活用した観光客誘致 33.4 (-)

ク 農水産業

(7) 食料品を購入するとき「地元産」を意識する ⇒ 65.3 (65.0)

(イ) 呉市の特産品だと思う農水産物

- 1位 ちりめんいりこ 74.9 (78.7) 4位 レモン 55.2 (46.3)
- 2位 みかん 72.7 (69.8) 5位 広カンラン※ 35.1 (-)
- 3位 かき(牡蠣) 71.7 (66.1) 6位 トマト 24.1 (30.0)

(ウ) 呉市の農水産業を発展させていくために必要な取組

- 1位 農水産業の新規参入者や後継者を育成する 46.4 (44.2)
- 2位 市民が積極的に地元産を購入する 45.5 (48.4)
- 3位 有害鳥獣対策を充実する(イノシシ対策など) 39.8 (38.9)

ケ 商工業

商工業を発展させていくために必要な取組※ 【図12】

- 1位 企業誘致・留置による働く場所の確保 56.6 (-)
- 2位 人材の安定的な確保と人材育成の支援 44.3 (-)
- 3位 起業・創業したい方と、事業を引き継ぎたい方とのマッチング支援 32.8 (-)

図11 多くの観光客に来ていただくために必要だと思う取組

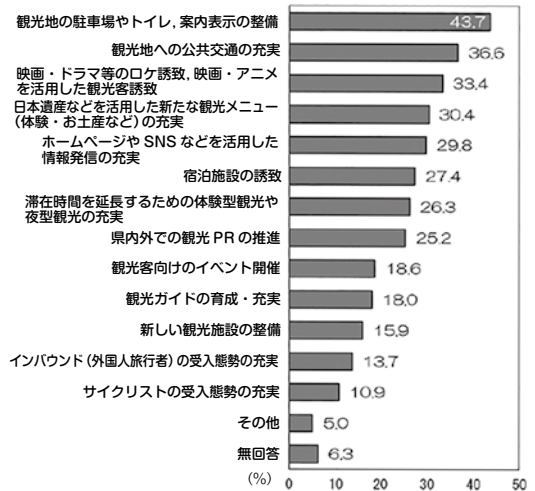
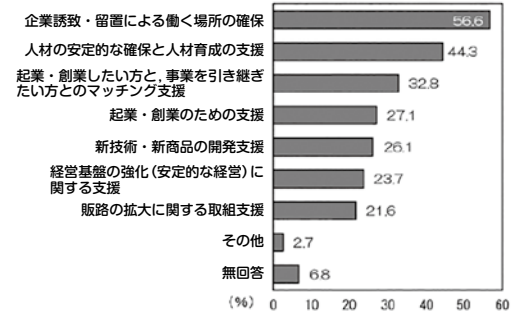


図12 商工業を発展させていくために必要な取組



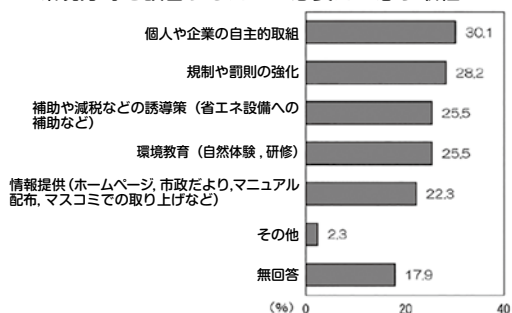
コ 環境

(ア) 地球環境に配慮した取組を行っている人 ⇒ 73.0 (84.2)
 ・50歳代以外の年齢層で、前回調査より1割から2割減少しています。

- (イ) 普段実行している地球環境に配慮した取組
- | | | |
|----|-------------------------|-------------|
| 1位 | リサイクル（ごみの分別、店頭回収の利用等） | 71.9 (88.2) |
| 2位 | リデュース（マイバッグ持参、詰替商品の利用等） | 65.4 (86.2) |
| 3位 | 節水、節電 | 55.9 (62.0) |

- (ウ) 環境分野を改善するために必要だと思う取組 【図13】
- | | | |
|----|--------------------------|-------------|
| 1位 | 個人や企業の自主的取組 | 30.1 (32.8) |
| 2位 | 規制や罰則の強化 | 28.2 (30.9) |
| 3位 | 補助や減税などの誘導策（省エネ設備への補助など） | 25.5 (36.8) |

図13 環境分野を改善するために必要だと思う取組

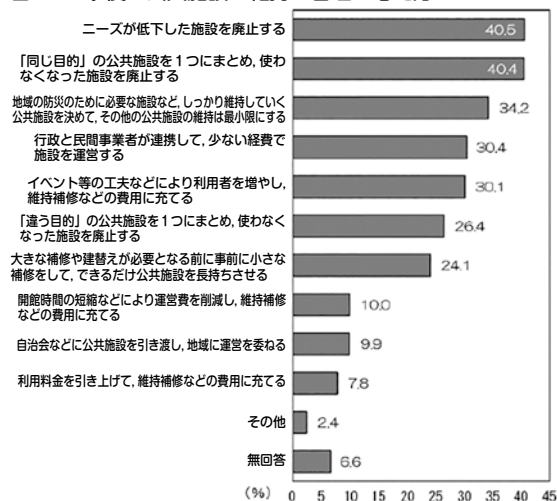


サ 公共施設

- (ア) 重要だと思う公共施設
- | | | |
|----|--------------------------------|-------------|
| 1位 | 社会教育施設（図書館など）、まちづくりセンター | 60.3 (52.8) |
| 2位 | スポーツ施設（体育館、プール、テニスコートなど） | 45.9 (41.9) |
| 3位 | 福祉施設（保育所、放課後児童会、身体障害者福祉センターなど） | 39.5 (37.2) |

- (イ) 今後の公共施設の維持・管理の考え方 【図14】
- | | | |
|----|--|-------------|
| 1位 | ニーズが低下した施設を廃止する※ | 40.5 (-) |
| 2位 | 「同じ目的」の公共施設を1つにまとめ、使わなくなった施設を廃止する | 40.4 (47.6) |
| 3位 | 地域の防災のために必要な施設など、しっかり維持していく公共施設を決めて、その他の公共施設の維持は最小限にする | 34.2 (35.0) |

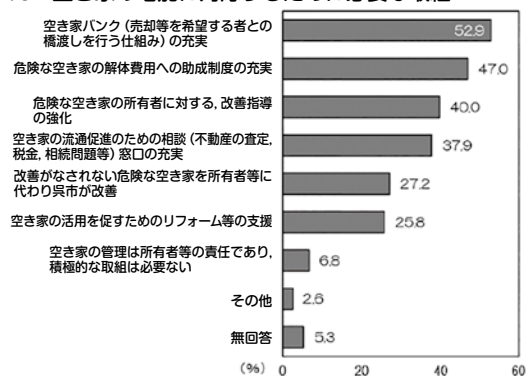
図14 今後の公共施設の維持・管理の考え方



シ 空き家対策

- 空き家の増加に対応するために必要な取組 【図15】
- | | | |
|----|---------------------------------|-------------|
| 1位 | 空き家バンク（売却等を希望する者との橋渡しを行う仕組み）の充実 | 52.9 (45.9) |
| 2位 | 危険な空き家の解体費用への助成制度の充実 | 47.0 (39.1) |
| 3位 | 危険な空き家の所有者に対する、改善指導の強化 | 40.0 (37.2) |

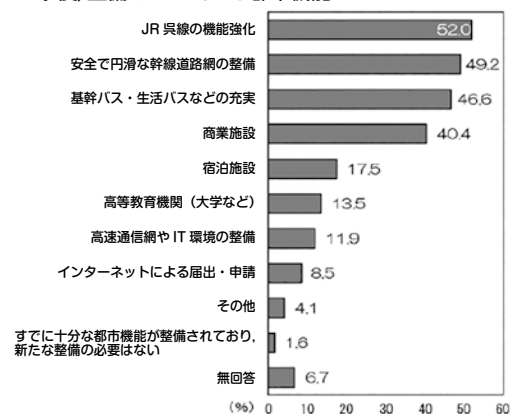
図15 空き家の増加に対応するために必要な取組



ス 高次都市機能

- (ア) 主要都市にふさわしい施設や設備が十分に備わっていると感じている人 ⇒ 10.3 (13.6)
- (イ) 今後、整備していくべき都市機能 【図16】
- | | | |
|----|----------------|-------------|
| 1位 | JR呉線の機能強化 | 52.0 (40.1) |
| 2位 | 安全で円滑な幹線道路網の整備 | 49.2 (36.3) |
| 3位 | 基幹バス・生活バスなどの充実 | 46.6 (40.1) |

図16 今後、整備していくべき都市機能

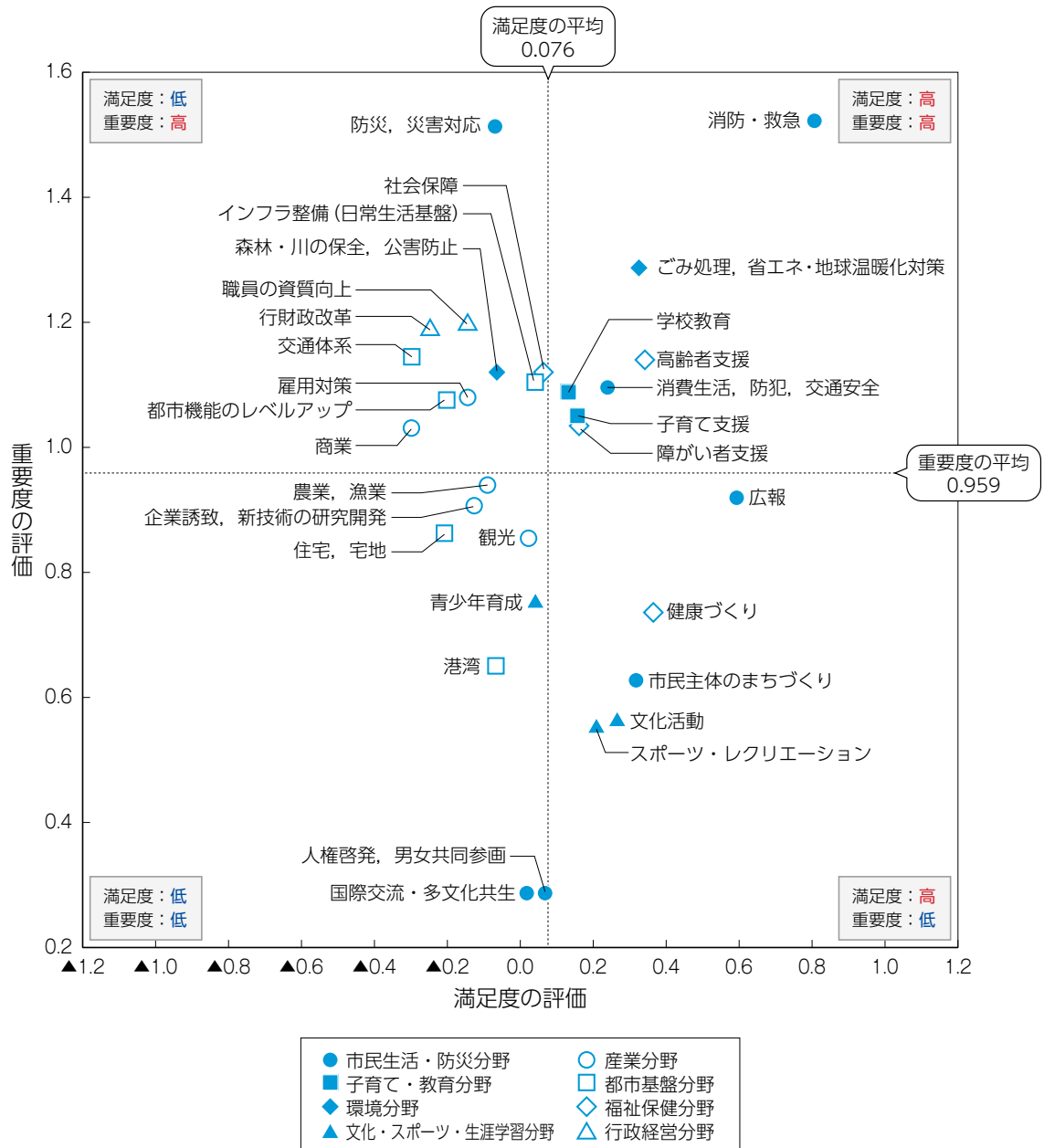


(3) 呉市の政策全般に対する満足度・重要度

- 満足度が高い **【図 17】**
- 1位 消防・救急（救急・消防活動など）
 - 2位 広報（市政だより、市ホームページなど）
 - 3位 健康づくり（ウォーキング大会、健診の受診促進、食育など）
- 満足度が低い
- 1位 商業（商店街の活性化、起業・創業支援など）
 - 2位 交通体系（公共交通機関の運行など）
 - 3位 行財政改革（財政の健全化）

- 重要度 **【図 17】**
- 1位 消防・救急（救急・消防活動など）
 - 2位 防災、災害対応（浸水対策など）
 - 3位 ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策

図 17 行政サービスの満足度と重要度の相関図（全体）



○ 結婚・出産・子育てに関する意識調査

1 調査の概要

(1) 調査の目的

市民の結婚や出産、子育てに関する実態や意向などを調査することにより、今後の市政運営の参考とします。

(2) 調査の設計

調査対象 呉市に居住する満18歳から満49歳までの男女2,000人（地区ごとに住民基本台帳からの無作為抽出）
〔前回調査（平成27年6月実施）男女3,000人〕

調査方法 郵送配布・インターネットによる回答〔前回調査 郵送配布・郵送回収〕

調査実施期間 令和元年12月13日～令和2年1月17日〔前回調査 平成27年6月19日～7月3日〕

(3) 回収結果

有効回収数 434票（回収率：21.7%）〔前回調査 920票（回収率：30.6%）〕

回答者の属性 性別

男性	184票 (42.4%)	女性	248票 (57.1%)	無回答	2票 (0.5%)
----	--------------	----	--------------	-----	-----------

年齢層別

18～19歳	28票 (6.5%)	20～24歳	47票 (10.8%)	25～29歳	48票 (11.1%)
30～34歳	69票 (15.9%)	35～39歳	69票 (15.9%)	40～44歳	77票 (17.7%)
45～49歳	96票 (22.1%)				

家族世帯構成（割合の計は、端数処理の関係で100%とならない場合があります。）

	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
1人世帯	14.3%	21.3%	25.0%	13.0%	8.7%	9.1%	9.4%
1世代家族（夫婦等）	3.6%	4.3%	20.8%	30.4%	20.3%	14.3%	15.6%
2世代家族（親・子）	67.9%	57.4%	45.8%	50.7%	66.7%	62.3%	70.8%
3世代家族（親・子・孫）	10.7%	8.5%	6.3%	2.9%	4.3%	11.7%	4.2%
無回答	3.6%	8.5%	2.1%	2.9%	0.0%	2.6%	0.0%

2 調査結果の概況

調査結果の概況は、次のとおりです。

(1) 結婚

ア 「結婚している」は62.7%で、前回調査（62.0%）と同様の結果となっています。また、年齢層別で見ると、25～29歳は41.7%で5割を超えていないものの、30～34歳（79.7%）で7割を超えて、45～49歳（87.5%）で最も多くなっています。

イ 結婚をしていない理由は、「理想の相手と出会わない（46.4%）」が最も多く、次いで「結婚後の収入や住居など経済的な生活基盤が不安（31.3%）」「今は学業や仕事に打ち込みたい（28.6%）」の順となっています。

ウ 結婚の希望をかなえるための取組は、「子育てに関する支援の充実（58.0%）」が前回調査（48.3%）と同様に最も多く、次いで今回から選択肢に追加した「安価で良質な住宅の供給（39.3%）」及び「家計全体の収入の増加（38.4%）」が多くなっています。

(2) 出産

ア 理想とする子どもの数について「2人（48.6%）」が、前回調査（53.9%）と同様に最も多くなっています。

イ 理想とする第1子の出産年齢については、全ての年齢層で「25～29歳」が最も多くなっています。

ウ 理想の子ども数を実現するために必要な条件については、「家計全体の収入が増える（40.8%）」が最も多く、次いで「教育費用の負担軽減（31.1%）」「保育料の負担軽減（27.6%）」の順となっており、個人の収入増加や費用負担の軽減が求められている結果となっています。

(3) 子育て

ア 子育てをする上で困っていることは、「出産や育児にお金がかかりすぎる（38.4%）」が最も多く、次いで「困っていることは特にない（29.3%）」「仕事と子育ての両立が難しい（22.3%）」の順となっています。

イ 子育てを支援するために必要な取組は、「保育料や教育費などの負担軽減（67.4%）」が最も多く、次いで「医療費補助や扶養控除などの優遇措置（58.7%）」「長時間保育や病児保育が可能な保育施設の拡充（46.3%）」の順となっています。

ウ 子育てと仕事の両立のため、企業に期待することについては、「子どもが病気のときなどに休暇が取れる職場環境の整備（80.2%）」が8割を超え、次いで「育児休業が取得しやすい職場環境・雰囲気づくり（51.2%）」「労働時間の短縮やフレックスタイムの導入（46.3%）」の順となっています。

(4) その他

ア 呉市に住宅を購入したい人は、全体で38.6%となっており、年齢層別では、「25～29歳」が54.8%と最も多く、次いで「40～44歳（47.6%）」「45～49歳（42.9%）」の順となっています。

イ 呉市に居住する理由は、「育ったまちだから」が43.1%と最も多く、次いで「勤務先が市内だから（28.1%）」「通勤が便利（9.4%）」の順となっています。

3 調査結果の主な特徴

調査結果の主な特徴は、次のとおりです。[単位：%] () 内の数値は前回調査の数値 ※は新規調査項目

(1) 結婚について

ア 結婚の状況	全体	男性	女性
結婚している	62.7 (62.0)	57.6 (56.6)	66.5 (65.8)
結婚していない	34.6 (32.1)	41.3 (38.9)	29.8 (27.4)
結婚していた	2.8 (5.3)	1.1 (4.4)	3.6 (5.9)
・年齢層別での「結婚している」			
20～24歳	2.1 (10.0)	35～39歳	81.2 (77.3)
25～29歳	41.7 (48.0)	40～44歳	72.7 (82.7)
30～34歳	79.7 (66.2)	45～49歳	87.5 (75.5)
イ 結婚した年齢	全体	男性	女性
1位 25～29歳	46.7 (43.2)	48.1 (46.5)	45.5 (41.5)
2位 20～24歳	22.4 (28.8)	17.0 (22.3)	26.1 (32.2)
3位 30～34歳	19.5 (18.2)	23.6 (22.4)	17.0 (15.9)
ウ 結婚の希望	全体	男性	女性
ぜひしたい	40.7 (28.1)	35.9 (26.7)	45.8 (28.6)
できればしたい	28.4 (28.8)	29.5 (26.6)	26.5 (31.2)
今は特に意識していない	16.7 (33.9)	23.1 (35.6)	10.8 (32.9)
結婚するつもりはない	7.4 (7.1)	7.7 (9.4)	7.2 (4.8)
エ 結婚していない理由			
1位 理想の相手と出会わない			46.4 (56.5)
2位 結婚後の収入や住居など経済的な生活基盤が不安			31.3 (26.4)
3位 今は学業や仕事に打ち込みたい			28.6 (24.2)
オ 結婚の希望をかなえるための取組			
1位 子育てに関する支援の充実			58.0 (48.3)
2位 安価で良質な住宅の供給※			39.3 (-)
3位 家計全体の収入の増加※			38.4 (-)

図1 結婚の希望（性別・年齢層別）※性別 無回答(n=1)除く

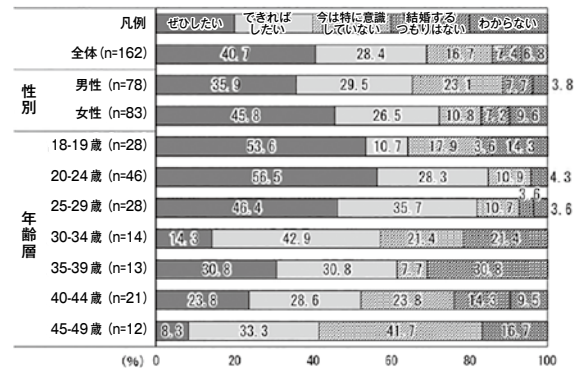
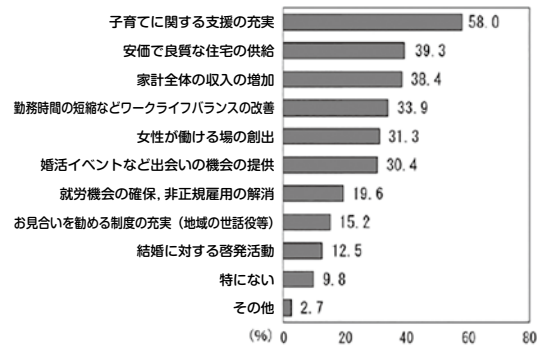


図2 結婚の希望をかなえるための取組



(2) 出産について

ア 理想とする欲しい子どもの数	【図3】		
1人: 6.7 (5.7) 2人: 48.6 (53.9) 3人: 30.6 (29.2)	(結婚している人)		
欲しい子どもの数	2.11人 (2.44人)		
現在の子どもの数	1.70人 (1.68人)		
・この回答結果を基に、市民希望出生率を計算すると、1.85となります。(国民希望出生率: 1.79)			
イ 理想とする第1子の出産年齢	25～29歳: 53.5 (50.5)		
ウ 子どもの数が、理想の子どもの数より少ない理由			
1位 結婚をしていない	28.1 (29.1)		
2位 出産や育児にお金がかかる	12.2 (18.3)		
3位 子どもの教育にお金がかかる	10.8 (19.7)		
エ 理想の子どもの数を実現するために必要な条件	【図4】		
1位 家計全体の収入が増える※	40.8 (-)		
2位 教育費用の負担軽減	31.1 (46.1)		
3位 保育料の負担軽減	27.6 (44.1)		
オ 出産前後での仕事の変化			
1位 特に変化はない	28.5 (22.6)		
2位 妊娠・出産を機に仕事をやめた	20.7 (26.5)		
3位 妊娠中に仕事をやめたが、 出産後、他の仕事に就いた	14.5 (16.2)		

図3 理想とする欲しい子どもの数（性別・年齢層別）

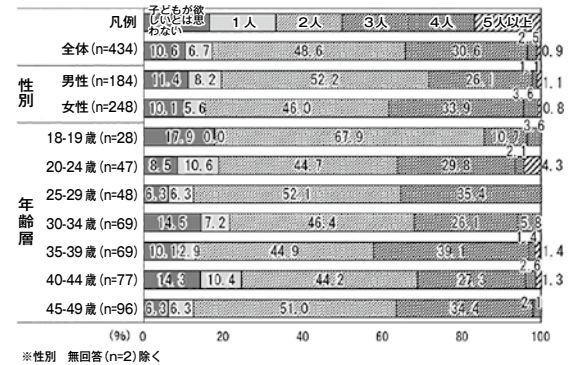
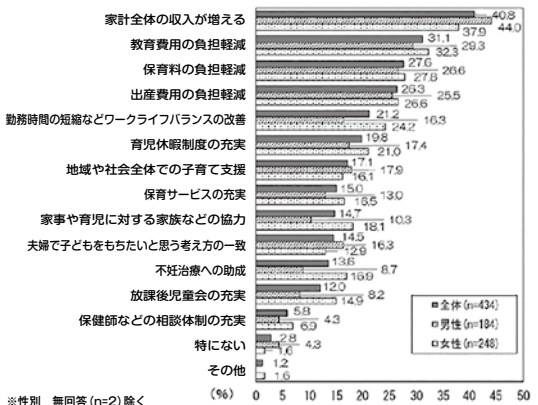


図4 理想の子どもの数を実現するために必要な条件



(3) 子育てについて

ア 子育てに関する不安や悩みを相談する人

1位	配偶者	71.5 (62.0)
2位	自分の親	58.7 (66.5)
3位	知人・友人	57.4 (65.8)

イ 子育てについて、親や祖父母、友人、近所の知人などからの手助け

日常的にある	38.4 (42.7)
ときどきある	38.4 (39.9)
ほとんどない	16.1 (11.5)
まったくない	7.0 (5.0)

・手助けをしてくれる人は、両親が 89.8 で最も多く、次いで近所の知人が 10.8、祖父母が 7.5 となっています。

ウ 子育てをする上で困っていること

1位	出産や育児にお金がかかりすぎる	38.4 (33.2)
2位	困っていることは特にはない	29.3 (30.9)
3位	仕事と子育ての両立が難しい	22.3 (23.2)

エ 子育てを支援するために必要な取組

1位	保育料や教育費などの負担軽減	67.4 (71.8)
2位	医療費補助や扶養控除などの優遇措置	58.7 (53.1)
3位	長時間保育や病児保育が可能な保育施設の拡充	46.3 (53.3)

オ 子育てと仕事の両立のために、企業に期待すること

1位	子どもが病気のときなどに休暇が取れる職場環境の整備	80.2 (75.5)
2位	育児休業が取得しやすい職場環境・雰囲気づくり	51.2 (51.8)
3位	労働時間の短縮やフレックスタイムの導入	46.3 (41.9)

・「子どもが病気のときなどに休暇が取れる職場環境の整備」は、30～34歳(91.1)が特に多くなっています。

図5 子育てについて、親や祖父母、友人、近所の知人などからの手助け (性別・年齢層別)

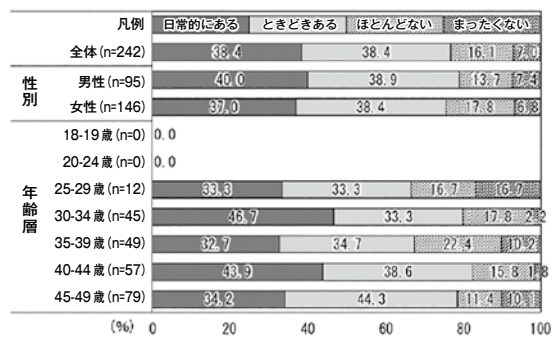


図6 子育てをする上で困っていること

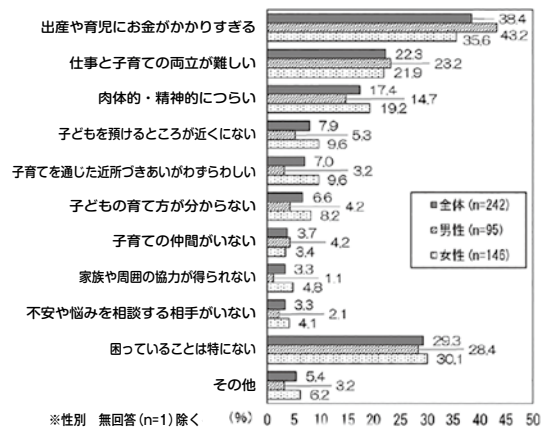


図7 子育てを支援するために必要な取組

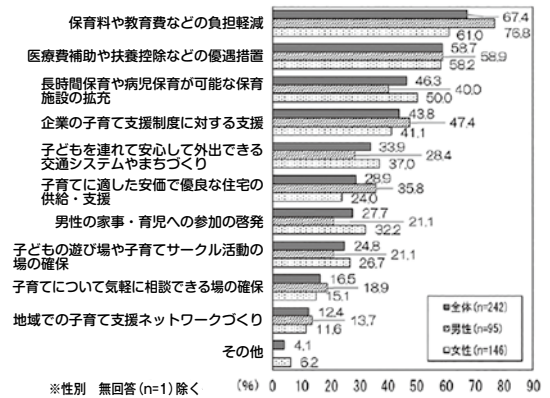
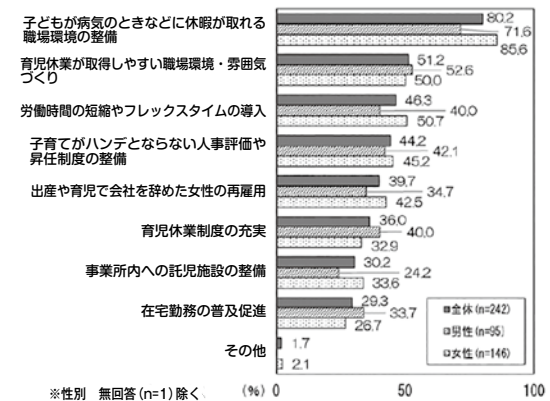


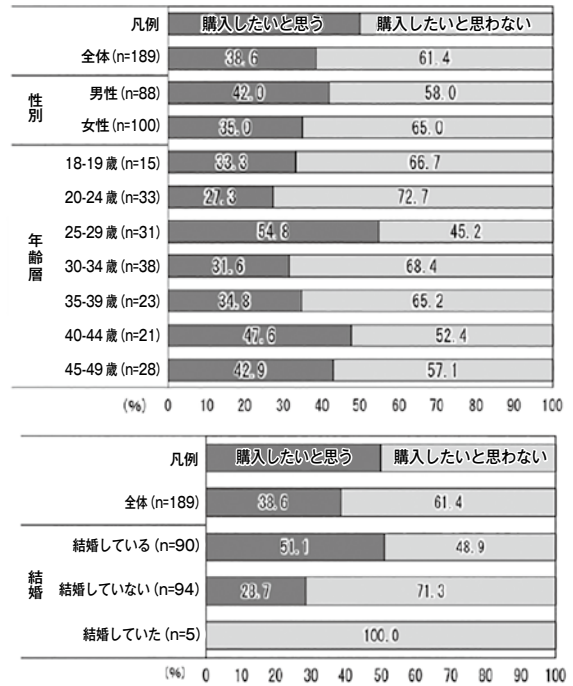
図8 子育てと仕事の両立のために、企業に期待すること



(4) その他

ア 現在の居住形態		
1位	1戸建て持ち家	44.5 (41.8)
2位	賃貸マンション・アパート	21.2 (17.9)
3位	分譲マンション	12.0 (12.1)
・年齢層別では、35～39歳以降は「1戸建て持ち家」の割合が5割を超えています。		
イ 呉市に住宅を購入したい人※ 38.6 (-) 【図9】		
・年齢層別では、25～29歳(54.8)が最も多く、5割を超えています。		
・結婚の有無別では、結婚している人(51.1)は過半数を超えています。		
ウ 呉市に居住している理由		
1位	育ったまちだから	43.1 (44.9)
2位	勤務先が市内だから	28.1 (19.7)
3位	通勤が便利	9.4 (6.2)
エ これからも呉市に住み続けたいと思う人 46.1 (50.1)		

図9 呉市に住宅を購入したい人 (性別・年齢層別・結婚の有無別)
※性別 無回答(n=1)除く



○ 若者（高校生）の定住志向に関するアンケート調査

1 調査の概要

(1) 調査の目的

若者（高校生）の定住志向に関する実態や意向などを調査することにより、今後の市政運営の参考とします。

(2) 調査の設計

調査対象 呉市内の高等学校3年生（1,532人）〔前回調査（平成27年5月実施）と同じ〕

* 前回調査では、広島県が実施した同様の調査の対象校となった呉工業高等学校を除外しました。

調査方法 学校において配布・回収 〔前回調査（平成27年5月実施）と同じ〕

調査実施期間 令和元年12月～令和2年1月 〔前回調査 平成27年5月19日～6月3日〕

(3) 回収結果

有効回収数 有効回収数 1,464票（回収率：95.6%） 〔前回調査：1,424票（回収率：100%）〕

	合計	普通科・総合学科	工業科	商業科	その他不明
全 体	1,464	1,029	252	173	10
男 性	686	403	231	46	6
女 性	731	595	8	125	3
その他不明	47	31	13	2	1

* 全体のうち、呉市在住者は1,245人（内訳 男性：566人、女性：638人、不明：41人）

2 調査結果の概況

調査結果の概況は、次のとおりです。なお、今回の調査結果には、前回調査で調査対象でなかった呉工業高等学校生徒の回答を含んでいます。

(1) 卒業後の進路希望

卒業後の進路希望は、4年制大学が55.1%、短期大学が4.7%、専修学校・各種学校が16.7%と進学希望が76.5%となり、就職希望は20.6%となっています。

(2) 進学希望者

ア 進学を希望する地域をみると、前回調査と同様に「広島県内（呉市以外）（53.2%）」が最も多く、「呉市内（7.2%）」を合わせると60.4%となり、県内への進学希望が6割を超えています。

イ 県外への進学希望者（37.6%）の卒業後の進路希望をみると、「帰ってくるつもりはない」が25.3%となっています。主な理由として、「卒業後に就職したい企業が市（県）内がない（28.2%）」「保護者の元を離れて自立したいから（26.4%）」「卒業後に就職したい業種や職種が市（県）内がない（24.5%）」が、上位に挙がっています。

(3) 就職希望者

ア 就職を希望する業種をみると、「製造業（46.4%）」が最も多く、次いで「公務（12.6%）」「金融業・保険業（5.0%）」の順となっています。

イ 就職を希望する地域をみると、「呉市内（57.9%）」が最も多く、「広島県内（呉市以外）（35.4%）」を合わせると、93.3%となり、県内への就職希望者が9割を超えています。

ウ 呉市、広島県内への就職を希望する理由をみると、「就職したい企業が市（県）内にある（55.0%）」が、5割を超えています。

(4) 呉市について

ア 呉市の「住みよさ」については、「住みよい（23.9%）」と「どちらかといえば住みよい（47.1%）」を合わせると、71.0%の高校生が「住みよい」と評価しており、呉市民意識調査の「住みよい（68.2%）」を上回っています。

イ 呉市への定住意思については、「分からない（36.5%）」が最も多く、次いで「住み続けたい（29.0%）」「移りたい（市外）（22.8%）」の順となっています。

ウ 呉市への愛着については、愛着を「感じる（56.2%）」が前回調査（58.3%）より2.1ポイント減少し、「感じない（10.9%）」と「分からない（28.9%）」の合計（39.8%）は、前回調査（38.8%）より1.0ポイント増加しています。

3 調査結果の主な特徴

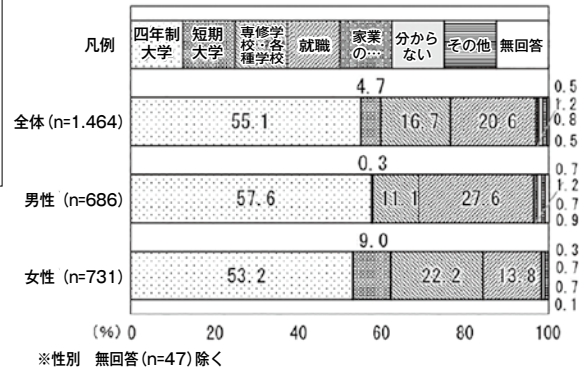
調査結果の主な特徴は、次のとおりです。 [単位：％] () 内の数値は前回調査の数値 ※は新規調査項目

(1) 卒業後の進路

希望の進路	全体	男性	女性【図1】
1位 4年制大学	55.1 (58.7)	57.6 (60.9)	53.2 (58.7)
2位 就職	20.6 (17.1)	27.6 (23.6)	13.8 (12.3)
3位 専修学校・各種学校	16.7 (14.7)	11.1 (10.4)	22.2 (18.7)

・2位と3位は性別で異なり、女性は「専修学校・各種学校 (22.2)」が多く、男性は「就職 (27.6)」が多くなっている。

図1 希望の進路 (性別)



(2) 進学希望者 (有効回答者数 1,120 人)

ア 進学を希望する地域	全体	男性	女性【図2】
1位 広島県内 (呉市以外)	53.2 (58.7)	49.9 (51.6)	56.4 (63.7)
2位 広島県以外の中国圏	9.2 (8.0)	12.1 (10.9)	6.8 (6.0)
3位 大阪圏	8.8 (8.5)	7.4 (8.1)	9.7 (8.7)

・広島県内を希望している人が 60.4 となり、前回調査 (63.9) と同様に6割を超えています。

イ 呉市内、広島県内を希望する理由	全体	男性	女性
1位 進学したい学校が地元にある	69.0(63.0)	66.7(66.7)	71.3(61.3)
2位 地元から離れるの必要を感じない	24.7(17.3)	20.8(15.9)	26.8(18.0)
3位 下宿や送りでお金がかかる	19.1(19.1)	17.3(18.7)	20.6(19.5)

ウ 広島県外を希望する理由	全体	男性	女性
1位 進学したい学校が市 (県) 内がない	44.4(38.4)	43.2(42.7)	47.1(33.5)
2位 希望する学部や学科が市 (県) 内がない	28.0(29.7)	23.0(27.7)	33.7(31.9)
3位 地元を離れて一人暮らしがしたい	26.2(30.7)	26.8(30.5)	24.5(30.9)

エ 卒業後、呉に帰りたいと考えている人※	全体	男性	女性
・今はまだどうするか考えていない	60.2	67.1	54.3
・帰ってくるつもりはない	25.3	20.7	28.8
・帰ってくるつもりである	12.9	11.3	14.4

オ 呉に帰ってこようと思わない理由※	全体	男性	女性【図3】
1位 卒業後に就職したい企業が市 (県) 内がない	28.2	18.2	33.3
2位 保護者の元を離れて自立したい	26.4	22.7	28.3
3位 卒業後に就職したい業種や職種が市 (県) 内がない	24.5	18.2	30.0

カ 卒業後の希望職種※	全体	男性	女性
1位 医療・福祉	22.3	11.0	31.4
2位 教育・学習支援業	15.6	12.7	18.0
3位 公務	11.6	15.9	8.6

図2 進学を希望する地域

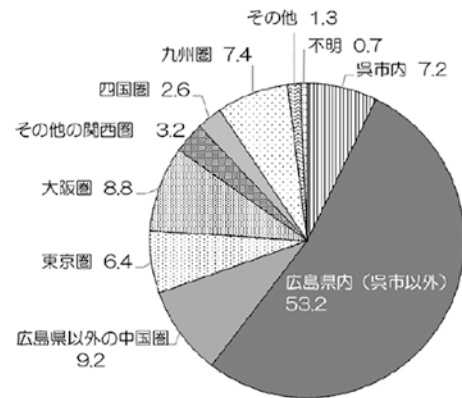
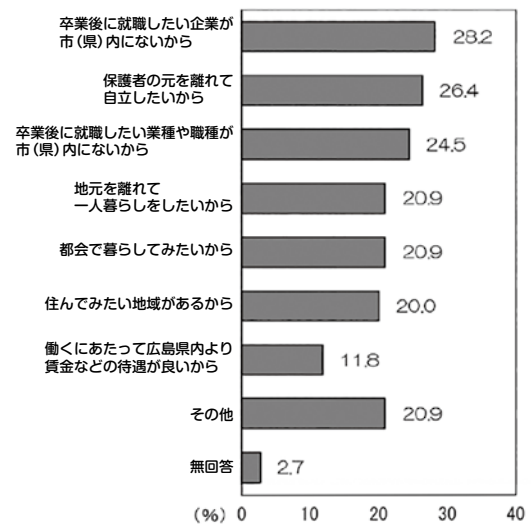


図3 呉に帰ってこようと思わない理由



(3) 就職希望者（有効回答者数 302 人）

ア 就職を希望する高校生の希望職種※				
	全体	男性	女性	
1位 製造業	46.4	61.4	17.8	
2位 公務	12.6	14.3	8.9	
3位 金融業・保険業	5.0	0.5	13.9	

イ 就職を希望する地域				
	全体	男性	女性	【図4】
1位 呉市内	57.9(49.8)	62.4(51.7)	54.5(46.8)	
2位 広島県内（呉市以外）	35.4(42.8)	31.2(40.3)	39.6(46.8)	
3位 東京圏	2.3(2.1)	2.1(2.7)	3.0(1.1)	

・広島県内を希望している人が 93.3 となり、前回調査（93.6）と同様に9割を超えています。

ウ 呉市内、広島県内を希望する理由				
	全体	男性	女性	【図5】
1位 就職したい企業が市（県）内にある	55.0(40.0)	59.9(49.6)	45.3(25.0)	
2位 地元から離れる必要性を感じない	26.6(36.0)	27.7(38.0)	26.3(33.0)	
3位 家族との同居	15.6(15.6)	9.6(5.8)	27.4(30.7)	

エ 広島県外を希望する理由				
	全体	男性	女性	
1位 就職したい業種や職種が市（県）内がない	29.4(27.8)			
2位 地元を離れて一人暮らしをしたい	23.5(22.2)			
都会で暮らしてみたい	23.5(27.8)			

※県外希望者が 17 名（男性：11 名，女性：4 名，不明：2 名）と少数のため、数値に偏りが生じていることから男女別は表記していません。

オ 就職先を検討する際に重視すること				
	全体	男性	女性	
1位 安定している	60.9(67.5)	61.9(69.8)	59.4(63.8)	
2位 給料が良い	36.1(54.3)	41.8(55.0)	26.7(53.2)	
3位 自分のやりたい仕事（職種）ができる	34.4(43.6)	32.8(40.9)	37.6(47.9)	

図 4 就職を希望する地域

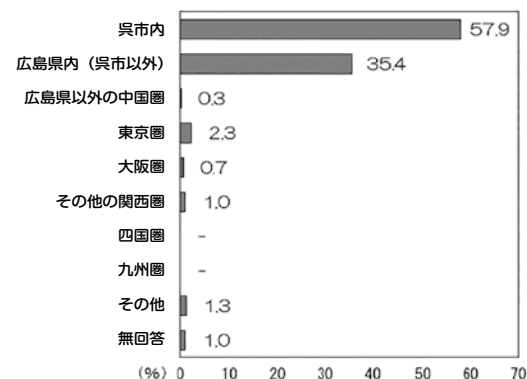
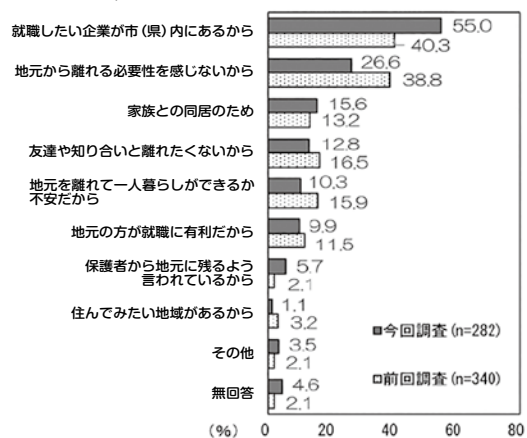


図 5 呉市内、広島県内を希望する理由



(4) 呉市について（回答者のうち呉市在住者 1,245 人分を抽出した結果）

ア 呉市の住みよさ				
	全体	男性	女性	【図6】
住みよい	23.9(37.7)	27.0(38.8)	21.2(38.1)	
どちらかといえば住みよい	47.1(36.1)	42.2(35.9)	52.8(37.2)	
どちらかといえば住みにくい	12.8(12.9)	11.1(12.7)	14.3(13.6)	
住みにくい	5.1(5.2)	6.5(6.3)	3.3(4.4)	

イ 呉市の住みやすいと思うところ				
	全体	男性	女性	
1位 自然環境が良い※	38.2(-)	31.1(-)	45.1(-)	
2位 買物環境が充実している	23.7(37.2)	22.6(-)	24.8(-)	
3位 住宅環境が充実している※	19.5(-)	20.3(-)	18.7(-)	

ウ 呉市の住みにくいと思うところ				
	全体	男性	女性	
1位 レジャー・娯楽施設が少ない※	55.7(-)	54.9(-)	57.2(-)	
2位 公共交通機関が不便※	32.4(-)	26.5(-)	37.8(-)	
3位 買物環境が良くない	22.7(55.8)	23.0(-)	22.3(-)	

エ 呉市への定住意思				
	全体	男性	女性	【図7】
分からない	36.5(28.6)	37.8(27.8)	35.6(30.0)	
住み続けたい	29.0(30.1)	31.1(30.2)	27.3(30.9)	
移りたい（市外）	22.8(18.2)	20.7(17.7)	24.3(19.2)	
移りたい（市内）	8.6(7.7)	6.0(7.0)	11.1(8.4)	

オ 呉市への愛着				
	全体	男性	女性	
感じる	56.2(58.3)	56.2(63.0)	57.2(56.3)	
感じない	10.9(12.1)	12.7(15.0)	8.6(10.1)	
分からない	28.9(26.7)	25.8(20.6)	31.8(32.5)	

図 6 呉市の住みよさ

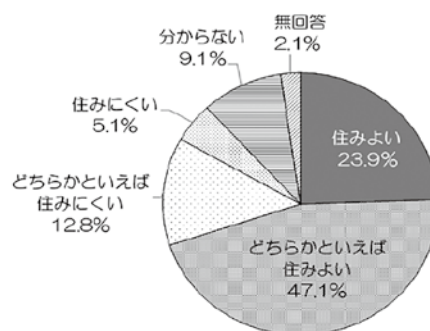


図 7 呉市への定住意思（性別）

